

蚊媒介感染症 にご注意!

一昨年70年ぶりにデング熱の国内感染が確認されましたが、今夏は中南米諸国を中心に大流行しているジカ熱への感染防止に注意が必要です。

感染の流れ



蚊媒介感染症は、ウイルスを持った患者を刺した蚊が、別の人を刺すことで広がります。感染予防には蚊に刺されない対策と蚊を殖やさない対策の2つをうまく組み合わせることが重要です。

また、感染してしまった場合は、他者への感染を防ぐため、蚊に刺されないようにすることが大切です。

主な蚊媒介感染症と症状



疾患名	媒介蚊	発生地域	潜伏期間	主な症状	ワクチンの有無
日本脳炎	コガタアカイエカ (豚→蚊→人)	日本、中国、 東南アジア、 南アジア	6～16日	発熱、頭痛、吐き気、 嘔吐、めまい、意識障害	あり
デング熱	ネッタイシマカ、 ヒトスジシマカなど (人→蚊→人)	東南アジア、 南アジア、 中南米、 カリブ海諸国	2～15日 (多くは3～7日)	発熱で始まり、頭痛、 眼窩痛、筋肉痛、関節痛	なし
ジカ熱	ネッタイシマカ、 ヒトスジシマカなど (人→蚊→人)	アフリカ、アジア、 ポリネシア諸島、 中南米、 カリブ海諸国	2～12日 (多くは2～7日)	軽度の発熱(38.5℃以下)、 頭痛、関節痛、筋肉痛、 倦怠感	なし

主な媒介蚊



ヒトスジシマカ



写真提供: 国立感染症研究所昆虫医科学部

体長: 約4～5mm
特徴: 体中央に白い縦線
活動時期: 主に日中
いわゆるヤブカ的一种

アカイエカ



写真提供: 国立感染症研究所昆虫医科学部

体長: 約5.5mm
特徴: 赤褐色
活動時期: 主に夜間
日本脳炎を媒介する蚊

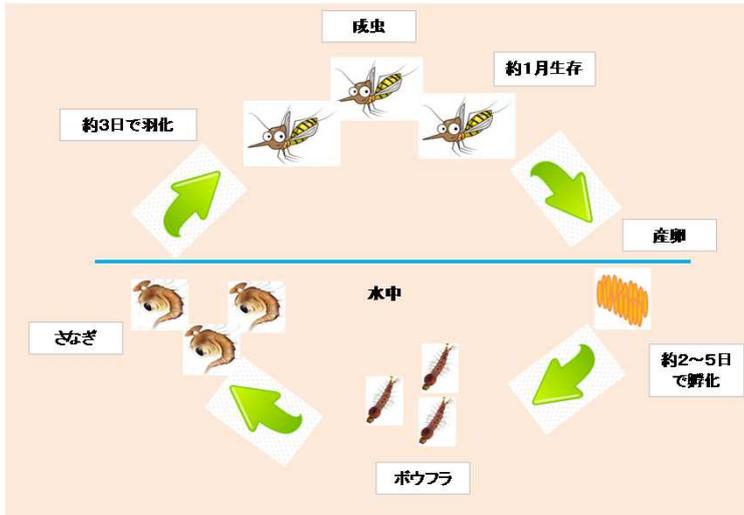
チカイエカ



写真提供: 国立感染症研究所昆虫医科学部

体長: 約5.5mm
特徴: アカイエカに酷似
活動時期: 年間を通じて生息
マンションやビル、地下街に多い

蚊の一生



私たちにできること

成虫は、広範囲を飛翔するため防除が難しくなります。

そこで、水中にいるポウフラを防除することが重要となります。

蚊は、僅かな水たまりでも産卵し1週間程度で成虫になります。

春先から夏場にかけて、家の周りを点検し、蚊が発生しにくい環境づくりに努めましょう。

殖やさない(幼虫対策)



蚊は、放置されたバケツ、空き缶、植木鉢の受け皿、植え込みなどに産卵します。
片付ける、伏せる、水を捨てる、雨のあたらない場所に置く、水をためないなど、蚊が発生しないための工夫を心がけましょう。

また、梅雨時期前に雨水枡や側溝を清掃しておくことも効果的です。



屋外に放置された
子供のおもちゃ

植木鉢の皿

雨どらしのじょうろ

排水溝

屋外に放置された
空きビン・缶、ペットボトル

古タイヤに
溜まった水たまり

刺されない(成虫対策)



蚊の多い場所に行くときは、長袖シャツ、長ズボン等を着用し、肌の露出を控えるようにしましょう。

また、外出時には忌避剤を首筋や手の甲など露出部分にむらなく塗りましょう。
 家の周りの藪や草むらは草刈り等を行い風通しをよくするほか窓の網戸を確認し、蚊の侵入を防止しましょう。



お問い合わせ



蚊の防除に関するお問い合わせは各市町村の環境担当課まで
 蚊媒介感染症に関するお問い合わせは東部保健所へご連絡ください。

東部保健所 〒874-0840 別府市大字鶴見字下田井14-1 ☎0977-67-2511